



## 促成トマトやピーマン栽培では灰色かび病の発生に 十分注意しましょう

促成トマトやピーマン栽培では、厳寒期に入り、施設内が多湿環境になりやすい状況となっています。このため、発病時期が前進化している灰色かび病の発生に十分な注意が必要です。

病害虫発生予報1月号（病害虫防除所）によると、12月中旬現在、促成トマトにおける灰色かび病の発病株率（本年4.0%、  
平年1.8%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年14%、平年16%）は平年並の状況、促成ピーマンにおける灰色かび病の  
発病株率（本年5.3%、平年0%）および発生地点率（本年33%、平年0%）ともに平年より高い状況で、1月における発生も  
トマトではやや多く、ピーマンでは多い状況で推移すると予測しています。

灰色かび病は、多湿の圃場環境が続けば多発生し、一度多発生してしまうとなかなか薬剤による防除効果が上がりにくい病害です。

このため、予防に努めるとともに、施設内をよく観察し、発病の早期発見と発病初期の防除を徹底してください。

なお、これらの病害は有効な薬剤に対して耐性菌が出現しやすいため、薬剤散布後は常に防除効果を確認しながら分類の異なる薬剤で防除を行う必要があります。

下記の防除のポイントを参考にして発病抑制の栽培環境を保持し、常に的確な防除対策を実施してください。

### ＜防除のポイント＞

- 1) トマトやピーマンの健全な生育を促すため、適宜な整枝、剪定による採光や通風の確保、適度な灌水や追肥など、適切な肥培管理に努めてください。
- 2) 灰色かび病は、花卉の落ちが悪いと、果実での発病を助長しますので、出来るだけ枯花を取り除きます。
- 3) 施設内の多湿条件が続くと、急速に発生します。昼近くになっても、作物に水滴が残るような場合には、暖房や送風、換気等により施設内の湿度をできるだけ低くするよう努めてください。
- 4) 被害葉や果実などを見つけたら直ちに摘除し、施設外へ持ち出して腐熟化させるなど適切に処分してください。施設内や近くに、そのまま放置することは（伝染源となる恐れがありますので）厳禁です。
- 5) 薬剤防除は予防または発病初期から行い、晴れた日の夕方までには薬液が乾くような時間帯に散布します。
- 6) 湿度の高い施設では、防除薬剤に「くん煙剤」なども活用しましょう。
- 7) 薬剤耐性菌の出現を抑制するため、同一分類（コード）の連続使用は避けて、ローテーション散布してください。

表1 トマトまたはミニトマト灰色かび病の主な防除薬剤

（令和4年12月26日現在）

対象作物 薬剤名	ト マ ト		ミニ ト マ ト		分類
	希釈倍率	使用時期／使用回数	希釈倍率	使用時期／使用回数	
ゲッター水和剤	1,000～1,500倍	収穫前日まで／5回以内	1,500倍	収穫前日まで／3回以内	1と10
ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで／3回以内	2,000～3,000倍	収穫前日まで／3回以内	11
フルピカフロアブル	2,000～3,000倍	収穫前日まで／4回以内	2,000～3,000倍	収穫前日まで／4回以内	9
セイビアーフロアブル20	1,000～1,500倍	収穫前日まで／3回以内	1,000～1,500倍	収穫前日まで／3回以内	12
パレード20フロアブル	2,000～4,000倍	収穫前日まで／3回以内	2,000～4,000倍	収穫前日まで／3回以内	7
ベルコートフロアブル	2,000～4,000倍	収穫前日まで／3回以内	4,000倍	収穫前日まで／2回以内	M7
ロブラールくん煙剤	くん煙室容積300～400㎡当たり100g	収穫前日まで／3回以内	くん煙室容積300～400㎡当たり100g	収穫前日まで／3回以内	2

注）表1および2の分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 ピーマン灰色かび病の主な防除薬剤

（令和4年12月26日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期／使用回数	分類
パレード20フロアブル	2,000～4,000倍	収穫前日まで／3回以内	7
スミレックス水和剤	1,000～2,000倍	収穫前日まで／5回以内	2
セイビアーフロアブル20	1,000倍	収穫前日まで／3回以内	12
シグナムWDG	2,000倍	収穫前日まで／2回以内	7と11

※ 上記の散布剤以外に、灰色かび病には暖房機のダクト取り付け口付近から製剤をダクト内に直接投入し、暖房機を数時間以上稼働させることで発病を予防する微生物農薬（ボトキラー水和剤：発病前～発病初期の使用：分類BM2）があります。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。